

2022（令和4）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495400309	事業の開始年月日	平成25年11月1日
		指定年月日	平成25年11月1日
法人名	ヒューマンライフケア株式会社		
事業所名	ヒューマンライフケア 多摩グループホーム		
所在地	(214-0004) 神奈川県川崎市多摩区菅馬場1-25-30		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和4年9月26日	評価結果 市町村受理日	令和5年1月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ホームの近くに川があり、桜並木の中川沿いを散歩コースとして取り入れております。自然や季節を楽しむ環境であり、近隣の方々との交流の場にもなっています。利用者様の生活スタイルに添って、それぞれの認知能力やADLに合わせた自立支援を行い、寄り添いながらケアを支援しております。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和4年10月26日	評価機関 評価決定日	令和4年12月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR南武線、「稲田堤」駅または「中野島」駅徒歩12分の所にあります。鉄骨造り3階建て、1階が小規模多機能型居宅介護事業所、2.3階が2ユニットのグループホームです。事業所への途中には緑地や畑が点在し、民家の庭にはたわわに実った柿やみかん、深紅の鶏頭の花が咲くなど緑豊かな住宅地の一角にあります。事業所は開設9年目を迎え、同法人は市内に同じ事業所を数か所展開しています。

<優れている点>

事業所の基本理念は三つ掲げています。職員は「利用者一人ひとりに寄り添い、家庭的な雰囲気の中で、笑顔で楽しく生活が送れるようにチームワークで支援」を念頭に実践しています。近くには、二ヶ領用水や中川があり遊歩道は毎日の散歩コースとなっています。春の桜や草花、川には渡り鳥の飛来や魚影など、散歩で四季の移ろいを楽しんでいます。遊歩道では地域の人達との出会いや、ふれあいの交流があります。また、職員の専門職の資格取得支援や法人独自の認定資格制度があります。職員は段階を踏んで資格取得、昇進などに励み、知識の向上やサービスの質の向上、人材育成などに積極的に取り組んでいます。看護師職員やベテラン職員を擁し、終末期のケアに取り組み、家族の要望に応じています。

<工夫点>

法人の本部には相談窓口があります。職員は本部への「相談カード」を常に携帯し、意見や悩みを直接相談出来るようになっています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ヒューマンライフケア 多摩グループホーム
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	誰もが見えやすい場所に法人の理念を掲示し、職員間で共有できるよう努めている。	事業所の理念は、利用者一人ひとりに寄り添い、笑顔で家庭的な雰囲気の中で過ごせる居心地の良い場作りを目指しています。職員はチームワークを念頭に理念の実践に努めています。理念は玄関や各フロアに掲げ、全職員で共有しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス拡大により、対外的な活動は今年度も実施できず。その中で継続している移動パン屋や、近所の事業所で販売している野菜を購入したりと地域との繋がりを持っている。	町内会に加入しています。外部との交流はコロナ禍により自粛中です。近くには二ヶ領用水が流れ、天気の良い日は毎日遊歩道を散歩しています。川岸では春の桜、渡り鳥や魚影も見ることが出来ます。遊歩道では地域の人達とのふれあい、交流の機会があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度も対外的な活動は行っていないが、グループホームの相談や見学などの問い合わせには対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス拡大により、今年度も現状開催を中止している。	会議の構成メンバーは民生委員、地域包括支援センター担当、利用者家族です。コロナ禍で対面会議は自粛し、2ヶ月ごとに内部で書面会議を実施しています。活動状況や運営状況、異食や脱水、転倒防止などの意見交換は運営に活かしています。議事録は家族に送っています。	2ヶ月ごとの書面会議議事録は家族の他に運営推進会議の参加メンバーに送り、情報の共有を図ることが期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	今年度から地域ケアプロジェクトに参加し、事業所の取組みや、他の事業所や行政とのやり取りを行い協力関係を築くよう行っている。	行政とは要介護認定の申請代行や困難事例の相談、ケースワーカーと連携を取っています。地域包括支援センター担当とは空室問い合わせなどで情報交換をしています。市の地域ケアプロジェクトに参加し、他の福祉関係の事業所や異業種との情報交換を行い運営に活かしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	現在、身体拘束に該当する方はいませんが、対象になり得る方に対しては毎月のカンファレンスで話し合いの場を作り、職員間で情報共有を行っている。委員会や研修を実施し、理解を深めている。	事業所の方針は運営規定に明記しています。身体拘束廃止・虐待防止委員会を定期的に開催し、事例検討を行い防止に努めています。職員は身体拘束の弊害について理解しています。不適切な言葉の拘束の事例があればカンファレンスで取り上げ、身体拘束をしないケアの仕方、適切な言葉かけの啓蒙に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のカンファレンスだけでなく、日頃から利用者の情報や申し送り等で確認し、虐待に繋がらない様注意を払っている。	運営規定に「身体拘束等の禁止」に関する方針をうたっています。身体拘束廃止委員会を開催し防止に努めています。虐待の恐れのある事例があれば法人本部と一体となって防止に努めています。職員は、身体拘束、虐待チェックシートで振り返り、自己点検を行っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度は活用しており、身寄りのない方は行政と話し合い、安心して暮らせるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約、改定等の際、利用者や家族、関係者等に十分な説明を行い理解を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人全体として利用者や家族関係者にアンケートを行い、意見や要望にできるだけだけの対応を行っています。	コロナ禍で家族との面会は緊急の場合以外は自粛しています。電話やライン（SNSアプリ）を使ってコミュニケーションを図っています。法人の家族アンケートも実施しています。利用者の活動状況を伝えるために、運営推進会議の議事録を送り情報の共有に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングや日々の申し送り等で、職員の意見や提案を聞き話し合いの場を設けている。	毎月のフロア会議や全体会議、年2回の個人面談で職員の意見や要望、提案を聞く機会を作っています。管理者は常に職員の意見や要望が自由に言える職場環境を整えています。職員の節水や節電の提案、行事計画などの企画提案は運営に活かしています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人全体として、キャリアアップ制度を活用し上期と下期に面談を行い各自目標を決め向上心を持って働ける環境整備を行っている。	職員の業務への努力や成果は適正に人事考課に反映しています。有給休暇の取得の奨励をしています。休憩室は備えています。職員のシフト表は職員の希望や諸事情を踏まえて作成しています。法人本部には、職員の悩みや相談を直接言える窓口を設けています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入社後に入社研修を受け、拠点ではOJTノートを活用し、一人ひとりの力量を把握し、社内研修などでキャリアアップを目指している。	年間の研修計画の実施は、eラーニングを通して研修を行っています。専門職の資格取得支援の他に、法人独自の資格認定制度があり、職員はさらに上の知識の研鑽やサービスの質の向上、人材育成に取り組んでいます。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルス拡大により、他拠点の管理者との対外的な活動は出来ていないが、社内研修の時、画面上で他拠点の管理者と交流を持ち、情報収集を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の情報収集や、入居後の状態観察、日々の記録や職員間での情報を共有し本人の要望を把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の情報収集や、困っていることや不安なことなどを聞き、入居後の希望や要望等ないか伺いケアプランに反映するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要に応じてグループホームだけでなく、他の施設の説明も行いその方に必要としているサービスを説明し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご自身で出来ることや、やりたいことなどを把握し、自立支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の普段の様子を書いた手紙を家族や関係者に報告し、必要に応じては電話連絡をし、家族の考えや希望などを伺い共に支えていける関係作りを行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年度も新型コロナウイルス拡大により、面会は全面的に禁止されている。馴染みの方との関係を継続できるよう、電話や手紙などで支援している。	友人や知人との電話や手紙の継続支援を行っています。コロナ禍では家族の協力で墓参りや一時帰宅、家族と買い物などは自粛しています。敷地内でのゴルフの素振り、絵画、縫物、納豆・コロッケ・キムチ作りなどの趣味嗜好の継続の支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	出来るだけ利用者同士の交流を持てるよう、フロア内の席取りに工夫をしたり、職員が間に入り支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、必要に応じて気軽に相談できるよう、配慮している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアや普段の会話から情報を引き出し、本人の希望や意向を把握できるよう努めている。また、職員間でも情報を共有しカンファレンスを行い検討している。	アセスメントや日常のケア、会話の中で把握しています。職員と1対1となる入浴介助の場で把握することもあります。意思表示の困難な利用者は表情や態度、行動、笑顔などで汲み取るようにしています。生活歴や家族の協力で把握することもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活歴や暮らし方などを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のケアから、本人の状態を観察し、職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ケースカンファレンスを各フロアで行い、プランの更新や担当者会議を実施しモニタリングを行ってケアプランを作成している。	長期目標の見直しは6ヶ月ごとです。モニタリングは全員で行い、フロアー会議で利用者の状態把握と課題の達成状況の検討、短期目標が達成した場合は随時見直しをしています。本人の希望する自立目標を検討し、家族の意向を反映して現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の記録や申し送りノートなどを活用し、利用者の変化や気づきを職員間で共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況を把握し、出来る限り希望に添えるよう柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	移動パン屋や、他事業所の売店、欲しい物をリストアップしお買い物代行などを行い、日々の暮らしを楽しむことができる様支援に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医、看護師と日々情報を共有し、適切な医療を提供し家族への病状説明を行っている。	提携内科医は月2回、歯科医または歯科衛生士は毎週往診しています。訪問看護師は週1回で「往診・訪問看護記録」で情報を共有し、利用者の健康管理を担っています。専門医の受診は原則家族対応です。緊急時には協力医療機関が対応するオンコール体制を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々のケアからの情報を共有・相談し、必要に応じて医師に繋げ適切な医療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを病院に提供し、情報交換に努めている。通院時は病院からの情報交換を行い、相談に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合かかりつけ医、看護師、家族関係者で本人の状態を共有し、話し合いの場を作りケアの方針を決め取り組んでいる。	契約時に「重度化対応及び看取りケアに関する指針」を説明し「意思確認書」の同意を得ています。看取りの実績があります。看取り状況の説明は医師が行い、家族が希望すれば看取りケア計画書を作成し、医師や看護師の連携の下、家族が納得できる看取り支援に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故のフローチャートを作成し、職員間で共有できるよう掲示している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	新型コロナウイルス拡大により、地域との共同訓練は出来ない状況だが、年2回の避難訓練や研修を実施し、災害対策に努めている。	年2回の消防・避難訓練を実施しています。8月は利用者も参加し、消防署員から、風水害時は3階への避難、火災時の安全行動や適切な避難場所の指導を得ています。2月の夜間想定訓練は職員のみで実施しています。災害備蓄品は、食料品・飲料水3日分を保管しています。	高齢者の施設では地域の協力は必須です。町内会への協力要請、訓練時に近隣家屋へのお知らせのポスティングなど日頃から地道な働きかけが期待されます。災害時の備品リストは事業所ごとに備えることが期待されます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症の理解や接遇などの研修を通して、適切な声かけや対応ができるよう努めている。	「人権・接遇」については、倫理・法令遵守の基本、ケアや年長者として敬う言葉かけの仕方などを研修会で学んでいます。職員は具体的な対応方法について理解しています。入浴や排泄介助の時にはプライバシーの確保と一人ひとりに寄り添うケアの実践に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	いつでも話しやすい雰囲気作りや、その方の判断能力に応じて自己決定ができるよう工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日頃から業務優先しないよう、利用者の生活ペースを大切にし、希望に沿って支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合わせて、着替える際、衣類の選別や、起床後の身だしなみを支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理は職員が行い、食後の下膳や食器拭きなど出来る方には行って頂き、職員と一緒に食事を楽しむよう努めている。	食材とおやつは外部に委託し、湯煎で提供しています。職員の姿が見えるオープンキッチンでは、ご飯とみそ汁を作る姿、包丁の音やみそ汁の匂いなど、利用者の五感の刺激になるよう心掛けています。敬老の日や季節メニューの提供、移動パン屋では好きな物を買える楽しみなども取り入れています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方に合わせた食事量を提供し、状態に応じて見守り・介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、その方に合わせた口腔ケアを行っている。また、歯科医からの指導、助言を受け支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日々の排泄記録を取り、個別に合わせた排泄支援を行っている。	利用者の仕草、排泄チェック表を下に声掛け誘導を行っています。夜間は定時のおむつ交換と呼び出しチャイムに対応して他の利用者に気づかれないようにトイレ誘導を行っています。自立排泄の人には、人格の尊重に心がけた見守り、必要な所だけを支援するように努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分や食事量の管理、必要に応じて医師や看護師と相談し、水分摂取の工夫に努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に入浴曜日はこちらで決めている。ただ、本人の希望や要望があれば適宜、変更や調整を行っている。季節に合わせて入浴剤などを入れ、楽しめる工夫を行っている。	入浴は週2回、午前か午後を選べます。介護度が高い人にはシャワー浴、足湯、ベッドでの清拭を行い、清潔保持と気分転換に心がけた会話をするように努めています。入浴拒否者には、無理強いせず、時間をかけて声かけし本人の希望に沿った入浴につなげる工夫をしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望や身体の状態に合わせ、休息の声かけや誘導等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬や軟膏などについて変更があった際は、往診医・看護師・薬剤師より説明を受け職員間で共有できるよう申し送りノートに記載して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節に合わせた行事や、レクリエーションの実施、生活の中で出来る範囲のお手伝いなど役割を支援している。気分転換を図る為、外気浴を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス拡大により、遠出の外出は制限している。拠点周辺の外気浴を行い、楽しんで頂いている。	コロナ禍でも二ヶ領用水路沿いの川辺の散歩に出かけ、健康維持とストレス解消を図っています。希望する利用者には職員が付き添い、敷地内で外気浴を楽しめるように支援しています。面会希望者には、ライン（SNSアプリ）で会話ができるように支援しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、こちらで管理している。また、お金が無いと不安な方には家族の了承を頂き、本人に少額持っている。移動パン屋で購入する際は、ご自身で支払うよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があった場合、家族の了承を頂いてから対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的な清掃、温度管理を行っている。季節に合わせた飾りつけをし、居心地の良い環境作りに努めている。	折り紙で季節の花やリスなどの動物を作っています。作品はリビングの壁に飾り明るい雰囲気作りに努めています。季節を感じるようハロウィンの時期にはハロウィンのキャラクターを居室の表札につけています。テレビが見やすいように、居間の両端に2台設置しています。ソファを置いて居場所作りの工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内の席取りや、利用者同士の関係性等を考慮し居場所の工夫を行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	昔から使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂くよう家族に伝えている。	備品はベッド、エアコン、クローゼットです。写真、書籍類、テレビ、馴染みの物や、家具を持ち込み、居心地よく過ごせるように工夫しています。安全な動線の確保、滑り止めマットや転倒防止センサーの設置、清掃、整理・整頓で清潔な居室になるように支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	最低限の動線の確保、分かりやすいよう標識を使い、自立した生活が送れるよう努めている。		

事業所名	ヒューマンライフケア 多摩グループホーム
ユニット名	3階

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	誰もが見えやすい場所に法人の理念を掲示し、職員間で共有できるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス拡大により、対外的な活動は今年度も実施できず。その中で継続している移動パン屋や、近所の事業所で販売している野菜を購入したりと地域との繋がりを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度も対外的な活動は行っていないが、グループホームの相談や見学などの問い合わせには対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス拡大により、今年度も現状開催を中止している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	今年度から地域ケアプロジェクトに参加し、事業所の取組みや、他の事業所や行政とのやり取りを行い協力関係を築くよう行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	現在、身体拘束に該当する方はいませんが、対象になり得る方に対しては毎月のカンファレンスで話し合いの場を作り、職員間で情報共有を行っている。委員会や研修を実施し、理解を深めている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	毎月のカンファレンスだけでなく、日頃から利用者の情報や申し送り等で確認し、虐待に繋がらない様注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度は活用しており、身寄りのない方は行政と話し合い、安心して暮らせるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約、解約、改定等の際、利用者や家族、関係者等に十分な説明を行い理解を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	法人全体として利用者や家族関係者にアンケートを行い、意見や要望に対応できるだけの対応を行っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のミーティングや日々の申し送り等で、職員の意見や提案を聞き話し合いの場を設けている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人全体として、キャリアアップ制度を活用し上期と下期に面談を行い各自目標を決め向上心を持って働ける環境整備を行っている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入社後に入社研修を受け、拠点ではOJTノートを活用し、一人ひとりの力量を把握し、社内研修などでキャリアアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	新型コロナウイルス拡大により、他拠点の管理者との対外的な活動は出来ていないが、社内研修の時、画面上で他拠点の管理者と交流を持ち、情報収集を行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の情報収集や、入居後の状態観察、日々の記録や職員間での情報を共有し本人の要望を把握できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前の情報収集や、困っていることや不安なことなどを聞き、入居後の希望や要望等ないか伺いケアプランに反映するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	必要に応じてグループホームだけでなく、他の施設の説明も行いその方に必要としているサービスを説明し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご自身で出来ることや、やりたいことなどを把握し、自立支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月の普段の様子を書いた手紙を家族や関係者に報告し、必要に応じては電話連絡をし、家族の考えや希望などを伺い共に支えていける関係作りを行っている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	今年度も新型コロナウイルス拡大により、面会は全面的に禁止されている。馴染みの方との関係を継続できるよう、電話や手紙などで支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	出来るだけ利用者同士の交流を持てるよう、フロア内の席取りに工夫をしたり、職員が間に入り支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、必要に応じて気軽に相談できるよう、配慮している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアや普段の会話から情報を引き出し、本人の希望や意向を把握できるよう努めている。また、職員間でも情報を共有しカンファレンスを行い検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活歴や暮らし方などを把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のケアから、本人の状態を観察し、職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月ケースカンファレンスを各フロアで行い、プランの更新や担当者会議を実施しモニタリングを行ってケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の記録や申し送りノートなどを活用し、利用者の変化や気づきを職員間で共有し、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況を把握し、出来る限り希望に添えるよう柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	移動パン屋や、他事業所の売店、欲しい物をリストアップしお買い物代行などを行い、日々の暮らしを楽しむことができる様支援に努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医、看護師と日々情報を共有し、適切な医療を提供し家族への病状説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日々のケアからの情報を共有・相談し、必要に応じて医師に繋げ適切な医療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリーを病院に提供し、情報交換に努めている。通院時は病院からの情報交換を行い、相談に努めている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合かかりつけ医、看護師、家族関係者で本人の状態を共有し、話し合いの場を作りケアの方針を決め取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変時や事故のフローチャートを作成し、職員間で共有できるよう掲示している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	新型コロナウイルス拡大により、地域との共同訓練は出来ない状況だが、年2回の避難訓練や研修を実施し、災害対策に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	認知症の理解や接遇などの研修を通し、適切な声かけや対応ができるよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	いつでも話しやすい雰囲気作りや、その方の判断能力に応じて自己決定ができるよう工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	日頃から業務優先しないよう、利用者の生活ペースを大切に、希望に沿って支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	季節に合わせ、着替える際、衣類の選別や、起床後の身だしなみを支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理は職員が行い、食後の下膳や食器拭きなど出来る方には行って頂き、職員と一緒に食事を楽しむよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	その方に合わせた食事量を提供し、状態に応じて見守り・介助を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、その方に合わせた口腔ケアを行っている。また、歯科医からの指導、助言を受け支援を行っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	日々の排泄記録を取り、個別に合わせた排泄支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分や食事量の管理、必要に応じて医師や看護師と相談し、水分摂取の工夫に努めている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	基本的に入浴曜日はこちらで決めている。ただ、本人の希望や要望があれば適宜、変更や調整を行っている。季節に合わせて入浴剤などを入れ、楽しめる工夫を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	本人の希望や身体の状態に合わせ、休息の声かけや誘導等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬や軟膏などについて変更があった際は、往診医・看護師・薬剤師より説明を受け職員間で共有できるよう申し送りノートに記載して確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節に合わせた行事や、レクリエーションの実施、生活の中で出来る範囲のお手伝いなど役割を支援している。気分転換を図る為、外気浴を行っている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	新型コロナウイルス拡大により、遠出の外出は制限している。拠点周辺の外気浴を行い、楽しんで頂いている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	基本的には、こちらで管理している。また、お金が無いと不安な方には家族の了承を頂き、本人に少額持っている。移動パン屋で購入する際は、ご自身で支払うよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望があった場合、家族の了承を頂いてから対応している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	定期的な清掃、温度管理を行っている。季節に合わせた飾りつけをし、居心地の良い環境作りに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内の席取りや、利用者同士の関係性等を考慮し居場所の工夫を行っている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	昔から使い慣れた物や好みの物を持ち込んで頂くよう家族に伝えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	最低限の動線の確保、分かりやすいよう標識を使い、自立した生活が送れるよう努めている。		

2022年度

事業所名 ヒューマンライフケア多摩グループホーム

作成日： 2022年 12月 25日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	水害について、実践的な避難訓練や備蓄品の保管や整備について	地域と連携し避難訓練の実施。備蓄品の保管場所の見直し。	地域活動の参加、地域の方々にポスティングや声掛けをし連携を図る。備蓄品のリストを見直し保管場所や小規模との合同避難訓練の実施。	9ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月